

Q

市長公約である仮称
「つるの駅」構想

はせがわ きよし
長谷川 清 議員



A

令和7年10月までに実現する

問 (仮称)「つるの駅構想」の全体像について。

れる。

答 本構想は、圏央鶴ヶ島インターに近接する民間の所有地に、食をテーマにした施設(地元飲食店の出店と地元野菜の直売所)を経営する民間企業を誘致するというものである。

この事業により、地域に活気とにぎわいが生まれ、そして憩いの拠点が創出されると考えられる。本市の第6次総合計画の市の将来像である「しあわせ共感安心のまち つるがしま」の実現には不可欠の事業であり、2期目の市長公約でもあるので、令和7年10月までに実現する。

問 交通量の少ないこのような場所に飲食店や農産物の直売所を出店する民間企業があると思えないし、期待される雇用も少ない。



Q

人口推計と市の将来像について

かないずみ ふ き こ
金泉婦貴子 議員



A

人口減少社会においても
活力のあるまちを目指す

なそうである。

市長はこの事業の売上高をいくらぐらいと想定しているのか。

答 売上を幾らにするのかという想定は幾らでもできる。

例えば50億円を売り上げるのであれば、1日5千人が平均3千円の買物をして350日営業すると、年間約50億円の売り上げになるし、1日1万人が来れば100億円を超える。



第6次鶴ヶ島市総合計画

問 若者に向けた取組について。

答 就職や結婚、更に出産や子育てまでの将来のビジョンを描けるような魅力あるまちづくりが重要と考えている。その取組の一つとして、職住近接のまちづくりを進めている。

問 子育て世代に向けた取組について。

答 第6次総合計画の重点戦略に「子どもにやさしいまちづくり」を掲げ、切れ目のない相談体制の充実や働く子育て世帯のニーズに合わせた保育施設、学童保育室の整備に努めてきた。

子育て世代がずっと住みたい、また、子どもたちが将来帰ってきたいと思えるまちづくりを推進する。

進する。

問 市民全体に向けた取組について。

答 誰もが安心して、出産、子育てができる環境の整備や子どもたちの教育環境の充実にも努める。元気なシニアの活躍のため、フレイル予防などの健康づくりや地域コミュニティの活性化を図る。更に企業誘致による就業の場の確保や地域経済の活性化に資する施策を展開する。

各施策を着実に推進し、社会情勢の変化に柔軟に対応しながら、人口減少社会においても活力のあるまちを目指す。